



IWATE BANK NEWS LETTER



平成26年3月7日

株式会社岩手銀行
株式会社北日本銀行

～いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）への取組み～ 第11回リエゾン－I 研究開発事業化育成資金贈呈について

岩手銀行（頭取 高橋真裕）、北日本銀行（頭取 佐藤安紀）では、両行が参画する「いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）」の主な活動として取り組んでいる「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」贈呈事業について、第11回となる今年度の贈呈先が決定しましたのでご通知申し上げます。

記

1. いわて産学連携推進協議会について

- （1）「いわて産学連携推進協議会（リエゾン－I）」は、大学のシーズ（新たな技術など）と企業のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に、平成16年5月に設立しました。現在では3金融機関と10研究機関が参画しています。
- （2）主な活動は、「リエゾン－I マッチングフェア」の開催、岩手県内の金融機関による「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」の贈呈、「研究シーズ集」の発行などです。

2. リエゾン－I 研究開発事業化育成資金の贈呈について

（1）創設目的

- ① 企業等が有する技術開発・商品開発のニーズと大学等有する高度な技術研究成果とを共同研究等を通じマッチングさせることにより、中小企業の「高付加価値」を通じて「事業の多角化」や「新たなビジネス創出」を積極的に支援するものであります。
- ② また、この育成資金を呼び水として、大学等にある「事業の芽」「技術の種」を企業等が事業化に向けて研究開発に積極的に取組むことを期待するものでもあります。

（2）対象先

- ① 「リエゾン－I」参画の研究機関との共同研究により新たな事業化を目指している企業等で、企業等の所在地域は、岩手県、青森県、秋田県、宮城県とします。
- ② なお、地域の中小企業支援の観点から、証券取引所上場会社およびそのグループ企業等は、原則として応募できません。

（3）贈呈金額

- ① 年間贈呈額1,500万円を上限とします。
- ② 1先あたり200万円を上限とします。

岩手銀行



IWATE BANK NEWS LETTER



3. 今年度の贈呈について

- (1) 『第11回リエゾン-I 研究開発事業化育成資金』贈呈先一覧」別紙のとおりです。
- (2) 今年度は11社に1,300万円の贈呈をおこない、これまでの贈呈先数金額は、延べ70社に9,400万円となりました。
- (3) 贈呈式の開催

平成26年2月28日に岩手大学構内（コラボMIU）で行なわれ、金融機関を代表して岩手銀行高橋頭取より11社の代表者に目録の贈呈および認定証の授与をおこないました。

【贈呈の様子：受賞企業代表者の記念撮影】



<本件に関するお問合せ先>

岩手銀行地域サポート部：岡市 電話019-624-8325

北日本銀行営業統括部：浅沼 電話019-626-6468

岩手銀行

第11回「リエゾン-I 研究開発事業化育成資金」 贈呈先一覧

(平成26年2月28日贈呈)

○株式会社いわて金型技研

代表者：代表取締役 清水 友治

住所：岩手県北上市大通り3丁目4番2号パークヴィラ I A棟

事業計画名：プレスと溶接の同時加工による次世代自動車用高度部品製造技術の研究開発

共同研究者：岩手大学 工学部 マテリアル工学科 教授 中村 満、
工学部 機械システム工学科 特任教授 亀田 英一郎、
工学部 附属金型研究センター 准教授 西村 文仁

計画の要約：軽自動車や、電気自動車に使われているブレーキドラムのコストダウンのための、鋳造からプレスによる工法転換の研究開発が行われている。そのプレス技術で製作されるブレーキドラムのフランジ部の信頼性向上のための抵抗溶接技術の構築を目指す。そのためのプレスと抵抗溶接を同時に行う機構の構造の考案と、装置の設計製作および実証試験を行い、抵抗溶接の最適条件、装置および製品の熱影響の問題を検討する。

贈呈金額：150万円

○三共精密金型株式会社 陸前高田工場

代表者：代表取締役社長 大野 雅和

住所：岩手県陸前高田市竹駒町相川146-1

事業計画名：SKW-L2（レーザービームによる成型部品めっき工法）の実用化技術開発

共同研究者：岩手県工業技術センター 主任専門研究員 目黒 和幸

計画の要約：携帯用機器や低侵襲医療用機器、自動車運転システムでは部材の多機能並びにコンパクト化が求められている。そこで部品の表面に電気回路が形成出来るMID部品が注目されている。本事業ではプラスチック部品表面へレーザー光を照射した箇所だけに選択めっきが出来るSKW-L2工法により、3D微細配線パターンのMID製品の実用化を目標として、本工法が適用可能な樹脂材料及び適切なレーザー照射条件等の技術開発を行っている。

贈呈金額：150万円

○株式会社 スペック

代表者：代表取締役 伊藤 乃

住所：岩手県北上市相去町西裏63-33

事業計画名：高速粒子衝突法を利用した有機固相離型・離反膜の実用化開発

共同研究者：岩手県工業技術センター ものづくり基盤技術第1部長 鈴木一孝 ほか4名

計画の要約：自動車メーカー等では、発泡成形用金型へのプラスチック製品の張り付きや、塗装用治工具への塗料の堆積を防止するため人手による離型剤塗布などを行っており、生産性向上および品質安定の足かせとなっている。このため、これらの金型や治工具表面への離型・離反膜形成が求められている。本研究ではコールドスプレー法を用い簡便にフッ素樹脂膜を形成する方法、および膜除去・再処理技術を開発する。

贈呈金額：150万円

○有限会社イグノス

代表者：代表取締役 大和田 功

住所：岩手県北上市相去町山田2番地18 北上オフィスプラザ212

事業計画名：画像とセンサネットワークによるハイブリッドARセンサーモニターシステムの開発

共同研究者：岩手工業技術センター 電子情報技術部 部長 高橋 強、専門研究員 菊池 貴、
専門研究員 野村 翼、専門研究員 千田 麗誉

計画の要約：無線センサネットワークで得られたセンシング結果を2次元・3次元視覚情報に変換し、カメラによる撮影画像と合成し、AR（拡張現実）情報としてTablet端末にモニター表示・記録するシステムを開発する。具体的には水耕栽培ハウス内温度・湿度・日射量等のハウス内分布状況を撮影して実写画像と合成し、Tablet端末上で視覚的に解り易く表示する。また記録データは、生育指標、生育被害時解析データとして、生産、品質向上ツールとして使用できる。

贈呈金額：150万円

○及源鑄造株式会社

代表者：代表取締役 及川 久仁子

住所：岩手県奥州市水沢区羽田町字堀ノ内45

事業計画名：天然物を用いた鑄鉄製厨房用品の防錆技術の開発と海外販路開拓

共同研究者：岩手大学 工学部 応用化学・生命工学科 教授 八代仁

計画の要約：欧州等の化学物質規制の厳しい国にも輸出可能であることはもちろん、世界各地で人と環境に優しい製品イメージが新たな付加価値となるような、こだわりの表面処理を標榜する鑄鉄製厨房用品を開発する。

贈呈金額：100万円

○株式会社水沢軽合金鑄造所

代表者：代表取締役社長 及川 勝比古

住所：岩手県奥州市水沢区姉体町字大内田前51-4

事業計画名：SiC粒子強化Al基複合材における低コスト鑄造技術の開発

共同研究者：岩手大学 工学部 マテリアル工学科 水本将之准教授

岩手県工業技術センター ものづくり基盤技術部2部 部長 池 浩之

計画の要約：SiC粒子強化Al複合材（MMC）はAl合金と同等の比重でありながら鑄鉄材と同等の剛性を持つ素材である。このMMCを使う事によって電子部品チップマウンタ、プレス機等の工作機械は加工の高速化を実現できる。しかし鑄造性の悪さや多額な設備投資が必要である事などから、市場での実用化が少ない現状にある。本研究では岩手大学、岩手県工業技術センターが有する金属基複合材料の流動特性や凝固形態、組織組成の知見を基に、弊社のAl合金鑄造技術を応用し、低コスト鑄造技術を開発する。

贈呈金額：100万円

○株式会社いおう化学研究所

代表者：代表取締役社長 森 邦夫

住所：岩手県盛岡市上田4-3-5

事業計画名：金属材料とフッ素ゴムの流動体及び非流動体加圧・加熱接合に関する研究

共同研究者：岩手大学工学部 応用化学・生命工学科 准教授 平原 英俊

計画の要約：自動車部品の開閉型弁の製造をステンレス-フッ素ゴム（接着剤使用）から軽量なアルミニウム-フッ素ゴム（分子接合技術の導入）に変える事で「工程簡素化、性能向上、低価格」を目指す為、産学共同研究を実施する。これら自動車部品の新接合製造技術は岩手県内自動車関連企業に期待される開発技術である。

贈呈金額：100万円

○木楽創研株式会社

代表者：代表取締役社長 熊谷 秀明

住所：岩手県大船渡市赤崎町字諏訪前42-9

事業計画名：気仙杉を活用した地域資源間伐材等・木質構造ハウスの開発と事業化

共同研究者：一関工業高等専門学校 機械工学科 准教授（工博）関根 孝次

計画の要約：気仙杉に代表される気仙地域の豊富な木質資源は、間伐作業の不徹底から「遊休森林」化が進んでいるが、東日本大震災からの復興に向けて、沿岸地域をはじめとする農業分野や水産加工分野などのニーズをもとに、木質資源の付加価値向上につながる新商品「木質資源活用ハウス」を開発・改良することにより、地元の木質資源を活用した、農業・林業などの再生や雇用の創出への貢献を目指している。

贈呈金額：100万円

○株式会社アイカムス・ラボ

代表者：代表取締役 片野 圭二

住所：岩手県盛岡市北飯岡一丁目8番25号

事業計画名：災害現場における救急救命用スタンドレス輸液装置の開発

共同研究者：岩手医科大学 岩手県高度救命救急センター 助教 秋富 慎司

岩手大学 工学部 機械システム工学科 教授 廣瀬 宏一、工学部 機械システム工学科 准教授 西村 文仁、工学部 機械システム工学科 助教 福江 高志

計画の要約：災害現場で使用可能な自動輸液装置は、大型でバッテリー寿命が短く、また、スタンドが必要なため患者搬送時の煩わしさや転倒の危険性がある。そこで本提案は、汎用チューブが使用可能な小型・高流量・高精度・低消費電力の輸液装置を開発するため①ポンプの高効率化と高精度化に伴う解析技術の確立②モーター等の動力系の高効率化③低脈動の高精度モーター制御技術の確立④転倒時にも使用可能なポンプシステムの開発を目指す。

贈呈金額：100万円

○オヤマダエンジニアリング株式会社

代表者：代表取締役 細矢 雄二

住所：岩手県盛岡市本町通三丁目18番8号

事業計画名：屋外設置型パッケージ木質チップボイラーの開発

共同研究者：岩手県工業技術センター 主任専門研究員 園田 哲也

計画の要約：今回の事業では全天候対応の屋外設置型木質チップボイラーを開発した。ボイラー建屋が不要で燃料サイロも屋外型としているため従来品に比べ大幅な工期短縮、建設コストの削減を実現しました。最短工期でボイラーを設置することが出来、災害時に給湯、暖房を早期に供給することが可能となる。弊社の木質チップボイラーは耐久性に優れ再生可能エネルギーの利用、震災復興の新たな街づくりに向けても活用が期待されている。

贈呈金額：100万円

○世嬉の一酒造株式会社

代表者：代表取締役社長 佐藤 航

住所：岩手県一関市田村町5-42

事業計画名：ビール醸造における廃液の再活用手法の開発（ビール蒸留酒を利用したリキュール開発）

共同研究者：岩手県工業技術センター 食品醸造技術部 上席専門研究員 米倉裕一

計画の要約：共同研究機関が保有する技術シーズを利用し、ビール醸造によって生じる廃液からアルコールを抽出し、抽出したアルコールをリキュール飲料にする研究開発を行った。これまで、炭酸ガスにより突沸しやすいビールの蒸留条件の検討、原料ビールの種類による蒸留酒の特徴の把握、岩手県産の果汁や農産物など蒸留酒に添加するリキュール原料や、その配合量の検討を行い、商品として有望ないくつかの試作品を得ることができた。今後は、商品コンセプトや販売戦略の検討を進めるとともに、引き続き共同研究機関の支援を受けながら商用生産規模での製造工程における課題抽出と改善に取り組んでいく。

贈呈金額：100万円

以上